

たんちょう通信

～ 第53号 ～



丹羽孝直

こんにちは、丹頂ガスの丹羽です。10月末に行われた「伊勢講座」は、私が所属する「青年塾」東海クラスの定版的な講座です。現在、東海クラスの副塾頭を務めさせて頂いております。全国に5クラスある「青年塾」は、そのクラスごとに行われる講座の中でも、唯一外すことのできない講座が「伊勢講座」です。この講座では「日本人の心の原点」である伊勢の「神宮」についての学びをします。「お神楽」や「垣内参拝」を経験させていただいたのもこの「青年塾」が始まりです。今回は、神宮の「管林部」に所属する村瀬次長にお越しいただき、一緒に参道を歩きながら「神宮の杜」についてのお話をして頂きました。「神宮の杜」とは、第11代垂仁天皇の時代に「天照大御神」が内宮に鎮座して以来、「神道山（カミヂヤマ）」と呼ばれて、神さんの杜として、約2,000年前からめがめられてきました。そして、第40代天武天皇の時代から20年に一度の「式年遷宮」が執り行われ、御造管用材として「桧」が使われるようになり、「御杣山（ミソヤマ）」と定められました。その広さは約5,500ha、神宮にある3つの山がすっぽり入るほどの大きさです。現在、「神宮の杜」では1haあたり100本、幹の太さ60cmの「桧」を200年かけて育てられています。因みに、前回の「式年遷宮」の御用材は長野県の「木曾の桧」で、伊勢の「神宮の杜」から「桧」が使えるようになるにはあと100年掛かるそうです。20年に一度御社を建て替える「式年遷宮」は「常若の精神」でもあり（常に若返ること）それと、20年に一度御社を建て替えることで親方から弟子へと技術を継承する文化を1,000年以上も続けてきました。一時、戦国時代には、事情により60年ほど遷宮が出来なかった時期もあったようですが、それでも尚、受け継いでいく「日本の伝統文化」の「尊さ」を肌で感じさせていただきました。またその晩は、五十鈴川での「水行」として「禊ぎ」をしました。ちょうど水温も程よく冷たくっており、心身共に引き締まる思いの中、日頃のアカ（罪穢れ）を落とさせていただくこともできました。感謝



皆さん、こんにちは。入社2年目の原田優蘭です。ニックネームは原ピ〜です。

私は小6のマラソン大会のとき、スタートのピストルが鳴った瞬間に後ろの人に押され

顔から思いっきり転んでしまいました。周りの子には「大丈夫？」と声をかけ

られましたが、あまりの衝撃に声も出ませんでした。私は足に自信があり、

小学まで3位入賞の実績もあり、すぐに立ち上がり、全身砂まみれでしたが

全力で先頭集団まで走りました。だんだんと足取りが重くなってきて、諦め

ようかなと思いましたが、でも道に立っていた先生方やPTAの方々が全身

砂まみれの私の姿を見たときに、今までの声援とは比べものにならないくらいの「頑張れ！」

「もう少しよ！」と、大きな声をかけてもらいました。しかし、残念ながら3位以内には入れな

かったけど、皆さんの声援のおかげで5位になることができました。私は完走できたことが

とても嬉しかったです。あのときの先生方やPTAの方々の応援は今でも感謝でいっぱいです。



原田 優蘭

防災 コーナー

緊急時に役立つアイテムと使いかた

新聞紙

暖をとる!

上着が足りず寒いときに、
数枚重ねて肩から羽織り
テープなどで合わせ目をとめます。

お腹に巻けば、腹巻きにもなります!

新聞紙は
羽織ると
暖かい...



新聞紙をこれのたものほどを
あてれば 糸え木の代わりに
なります!



ラップ

体に巻きつけて防寒具、
わじって強度を高めれば
ロープとしても使えます!

くしゃくしゃに丸め、
大きはポリ袋に入れ、
その中に足を入れます。
袋の口を閉じると
より暖かく保ちます。

ここに
足を入れる!



ビニール袋

骨折してしまった時に、必要は
三角巾が作れます。

袋の両端を裂いて、首から
吊すだけ!

袋は二重にして、段ボールなどに
入れます。そのまま袋の中に
水を入れれば 簡易水タンクに!

手袋にして、
感染予防に!



※巻きすぎ注意



ラップが便利!

新聞紙で紙皿を作り、
ラップをひけば食器になります!